

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成28年(2016)8月10日

No. 104

発行 高津啓洋

植樹が環境問題解決の糸口

環境問題が深刻化する中、特に命を守る緑の植樹活動の拡大が急がれています。東日本3.11の大震災においては、改めて、命を守る緑の防潮堤が脚光を浴びてきました。

高津啓洋代表も、各地で、緑の防潮堤の必要性と、普及活動に専念してきました。今回も8月6日、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、南北米福地開

発協会と共催で、パンタール・セミナーを開催しました。

高津代表が60人ほどの参加者に、センターの敷地内における、日本古来の森と森の成り立ち等について詳しく説明を行い、特にタブノキについて細かく説明しました。

(ちょうど実ができて、落ちるころになっていました)

その後、教室で、深刻化する地球環境問題と、南米パンタール地域での当会の植樹活動と今後の活動の報告がありました。

パンタール・レダ地域には、当会から、伊達勝見さんが派遣されて、植樹活動を展開しています。今年も青年奉仕隊が、9月、ディアナ村に植樹活動を予定しています。



8月はタブノキ、10月からはドングリ拾い



夏真っ盛りの今が、タブの実(写真上)を拾う絶好の時です。タブノキの葉の特徴(下の写真)。タブの実は、甘いので鳥が好んで食べます、またその鳥が自然な形で種を運び、フンとしてまかれて、増えていきます。

当会でも、自然界からの種やドングリを拾って、ばらまき、ポット苗づくりなど、理想的な植樹活動のひな型活動を行っています。

ドングリ集めにご協力ください。ドングリの送り先、

当会事務所にお送りください。そしてメールやファックスかお電話で送った旨ご連絡ください。

担当 戸石文夫

パラグアイ訪問記

かつてはパラグアイ川を、ひっきりなしに釣り観光船が行き来していたそうです。今では、魚もあまり釣れず、観光船を見ることが少なくなったそうです。

でも見てください。パクを中心によくの魚を釣ることができました。数年前から、レダでは、魚のふ化に成功し、その魚の稚魚を何十万匹も放流しています。近隣の村からも魚が最近増えていると報告が入っていると聞いています。

近隣の村の人が期待するように、少しずつ魚の復活ができていますようです。(北中 記)



[お知らせ] 9月パンタナール地域へ、青年奉仕隊を派遣します。皆様からの、支援をお願いいたします。